

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 高橋 甲枝	職名 准教授	学位 修士 (看護学)
----------	--------	-------------

研究分野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 がん看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーション教育 ・ 乳がん患者の就業支援

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する ・ 術後の看護支援についてのシミュレーション教育研究

担当授業科目
初年次セミナーⅠ (前期) 成人看護学演習 (前期) 救急・クリティカルケア看護学 (前期) 看護総合演習 (通年) 看護総合実習 (通年) 初年次セミナーⅡ (後期) 成人急性期看護方法論 (後期) 看護のための臨床検査 (後期) 看護学特論 (後期) 成人急性期看護学実習 (前期・後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期 ① 昨年度の課題であった「問い」については、「問い」とは何かについて講義内容および課題シートの変更を行い、学生が思考のステップを踏むことができるようにした。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会とした。 ② 学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式(構成)と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。 ③ 担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。
授業科目名【成人看護学演習】前期 ① 成人看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。急性期事例(胃がん)、慢性期事例(肝硬変)の2例を展開し、反転授業とした。 ② グループワーク人数を5名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映できるようにした。グループワークは小グループのクラスルームでグループワークができるようにした。 ③ 看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、食事指導、術食後の観察演習、術後患者の清拭・離床を行った。実施後にディスカッションを行い、実践の根拠について検討を行った。実施する根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。ストーマ造設した患者の看護については、模擬便を入れて体験を行い、ディスカッションを設けた。さらに学生は1日装着体験を行う患者体験を行った。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】前期 集中講義

- ① 2名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。
- ② 集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護について、患者体験と看護の根拠、看護師の役割について学びを深めた。
- ③ 脳神経、運動器等を中心に救急・クリティカルケア場面についての解説を行った

授業科目名【看護総合演習】通年

看護総合演習では、5名の学生を担当した。

「急性期看護学実習」を想起させ、急性期における看護について「文献研究」を行った。学生は作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、ディスカッションを通して急性期の看護について学びを深めていた。さらに、他者評価・自己評価を行うことができていた。

授業科目名【看護総合実習】通年

- ① 看護総合実習では、周手術期の患者の理解と看護師の理解を深めるために、各自「実習目的、計画」を立案し、午前中臨地にて実習を行い、午後はカンファレンスを行った。
- ② 濃厚接触者となった学生は、電子カルテを閲覧させて頂いたデータをもとに看護計画を立案し、学内にて模擬患者に対する観察、清潔ケア、離床の実施、退院指導を実施した。
- ③ 最後に目標に対する学びの発表とディスカッションを行った

授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期

- ① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた
- ② 初年次セミナーⅠで用いた課題発見やレポート作成計画書は引き続き活用し、グループ小冊子の構成を考えるためのワークシートについては、小冊子全体を効果的に捉えられるようにブラッシュアップした。
- ③ 発表準備の時間を十分確保できるように、グループ小冊子作成までの流れを見直し、プレゼンテーションに充てる時間を1コマ増やした。
- ④ 学習内容・進度にあわせて2コマ続きの講義も交えた進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。
- ⑤ プレゼンテーションの評価表について、見直し・修正を行った。
- ⑥ 発表時の評価は、担当者5名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。学生・教員による評価をもとに、優秀賞を選出し発表の場を設けた。

授業科目名【成人急性期看護方法論】後期

成人急性期看護方法論は、2年次開講科目である。2人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、乳腺外科疾患で手術を受ける患者の看護、脳神経外科の術後の管理について解説を行い、視覚的に学習する機会を取り入れた。また、3年前期につながるように事例を用いて看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に繋がることを実感できるようにした。

本年度より、「人工呼吸器を装着している患者の看護」の単元を追加した。

授業科目名【看護のための臨床検査】後期

- ① 昨年度に引き続き看護師3名にて担当した。放射線技師を外部講師として迎え1コマ放射線検査について説明を受けた。
- ② 授業計画は、これまでの形態機能学、疾病学、そして成人急性期方法論、成人慢性期方法論との関連を意識して立て、系統別に講義を組み立て、講義終了後に小テストを実施し、学生の理解を確認しながら講義を行った。
- ③ 検査データの基準値の定着のために毎回、知識確認テストを行った。
- ④ 演習を取り入れ、シミュレーション人形を用いた心電図の装着と不整脈の講義、模擬尿での検査の実施と判断、呼吸機能検査の解説とマウスフィルタをくわえての患者体験の課題学習を取り入れた。

授業科目名【看護学特論】後期 8コマ (担当1コマ)

4年次生を対象に各領域の教員で授業を行った。急性期看護の学びを深めるために、臨床検査・画像診断から得られた知見から「根拠にもとづいた看護」について考える機会とした。

授業科目名【成人急性期看護学実習】

- ① 成人急性期看護学実習は本来2週間の臨地実習と3週目にICUおよび手術室見学実習の3週間実習であるが、臨地実習は午前中3時間の臨地実習と午後は学内実習を行った。
- ② コロナ禍での実習であるため、朝の健康確認を徹底して、体調の悪い学生は受診勧奨と学内での実習にて対応を行った。
- ③ 臨地実習から急遽学内実習になることも考慮して、学内における代替実習の体制を整えた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員		1987年4月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995年5月～(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004年7月～(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004年7月～(現在に至る)
日本看護技術員		2011年4月～(現在に至る)
日本運動器看護学会会員		2015年2月～(現在に至る)
日本看護教育学会会員		2021年1月～(現在に至る)

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 高橋甲枝, 坂本未穂, 財津倫子, 大嶋満須美: ストーマ装具を装着した看護学生の生活体験からの気づき	共著	2023.3	西南女学院大学紀要. 27 (in press)	本研究の目的は、演習による模擬ストーマとストーマ装具を装着した看護学生の日常生活体験からの気づきを明らかにすることである。看護学生3年生105名を対象に装具装着を1日間体験後、提出された課題レポートの記述内容について質的帰納的分析を行った。 学生が患者疑似体験からストーマ造設患者の困難を知ること、患者に共感し、患者理解の深まりとともに必要な看護を考える上で有用な体験であったと考える。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生委員：2022. 4. 1～2023. 3. 31 ・ 学科教務担当：2022. 4. 1～2023. 3. 31 ・ 4年生（ゼミ）アドバイザー：2022. 4. 1～2023. 3. 31 ・ 看護学科プロジェクトメンバー ・ 看護学科プロジェクトワーキンググループ（学力向上ワーキンググループ、科目運営ワーキンググループ） ・ 保健福祉学部 設置30周年キックオフ特別講演会 担当者